

西原商事ホールディングスの子会社であるビートルエンジニアリング(北九州市、西原靖博社長、☎093・644・0158)は、北九州エコタウン内で約75億円を投じ、容器包装プラや製品プラの中間処理・再商品化を行

「ブラリー工場」約3万6000平方FUKURO(台湾)の建設を進めている。処理能力は2ライン合計で年間2万5000台。2026年度中に本格稼働する計画だ。動静脈連携による再生プラを活用した製品開発にも注力していく。

約3万6000平方FUKURO(台湾)の廃プラ洗浄プラント、一億社(台湾)のペレタイザーなどを導入する予定だ。将来的には、処理能力を年間3万7000ト(3ラリ・センター)で、家庭から一括回収された容器包装プラや製品プラの中間処理・再商品化計画認定を受けた北九州市と連携し、同市内にある「SRC」(サイクルできない残渣等は、サーマルやセメント原料向けに出荷する他、製鉄工場向けフオーミング抑制剤といった製鋼副資材に利用するなど、CO₂削減に貢献する新たなリサイクル手法も検討していくという。

2026年度中にプラ再生の新工場竣工へ

ビートルエンジニアリング

処理能力は2万5000t/年

で力も注
動静脈連携
製品開発に



「ブラリー工場」建設のようす



「SRC」の光学選別機

化を手掛けている。同工場の処理能力は年間1万ト。大手小売企業と協働して、再生プラを活用した「学習機の引き出し」を発売するなど、「市民に見えるリサイクル」にも取り組んできた。

今後、27年2月から家庭系プラ分別収集を導入する福岡市とも連携し、受入量の増加を見込む。新たに「ブラリー工場が稼働した後

は、福岡県内市町村の資源循環拠点として、SRCの機能も集約する。また、マテリアルリサイクルできない残渣等は、サーマルやセメント原料向けに出荷する他、製鉄工場向けフオーミング抑制剤といった製鋼副資材に利用するなど、CO₂削減に貢献する新たなリサイクル手法も検討していくという。

語った。